

千葉県鴨川市の取り組み

〜2020年東京オリンピック・パラリンピック関連の
競技会場・キャンプ誘致に向けて〜

2015.11

千葉県鴨川市

2020年東京オリンピック・パラリンピック関連の競技会場・キャンプ誘致に向けて

～充実したスポーツ施設、宿泊施設と最先端の医療体制を有する鴨川市～



鴨川市長
長谷川 孝 夫

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催の決定は日本国民に大きな喜びを与え、近年、災害や景気低迷などで沈んでいた心に希望の灯りをともすとともに国民としての誇りを呼び起こしました。

日本は今後5年間で大会開催に向けて、国を挙げて各種の競技施設や受入環境の整備などを進めていくことになるでしょう。

そして大会成功の条件は、多くの国民の夢でありますこの国家的プロジェクトを国全体が一体となって取り組み、東京だけでなく、活性化への道を模索する全ての地方自治体と住民にとって新たな成長、発展への起爆剤とすることです。

鴨川市は千葉県の南東部、太平洋岸に位置し、東京から1時間余りの好アクセスと大型海洋博物館や名刹古刹。恵まれた自然など豊富な観光資源、ホテルや旅館等を合わせ約100軒、1日当たり約7,000人以上を受け入れることのできる首都圏有数の宿泊能力を有し、年間480万人が訪れる県南の中核的な観光都市であります。

夏涼しく冬暖かく、年間を通じたスポーツ活動地としてプロ野球千葉ロッテマリーンズや首都圏の大学、高校などのキャンプや各種競技大会などが開催されています。受入施設としては、第3種公認の陸上競技場をはじめ、人工芝のサッカー場、プロ野球も使用する野球場やサブグラウンド、



また様々な屋外スポーツやキャンプ時の雨天練習場に利用できる人工芝の文化体育館に加え、2018年にはメイン・サブアリーナやトレーニングルームを備え、スポーツのみならず文化活動にも活用できる多目的施設が竣工する予定であり、県南有数の規模を誇る総合運動施設となっています。

また鴨川市は日本サーフィン発祥地とも言われ、1966年に第1回全日本サーフィン大会の

開催以降、毎年多くの大会やイベントが開催され、同時に多くのプロサーファーを輩出するなど、サーフィン文化が根付いている土地柄でもあります。

併せて首都圏では随一の自転車競技環境と言われ、そのロケーションとコースのバリエーションを求めて多くのロードレーサーやサイクリストが訪れています。

鴨川市は、少子高齢化や核家族化が進展する社会状況の中で、子どもから高齢者まで、障がいを持つ人も持たない人も、全ての市民が住み慣れた地域で助け合い、支え合いながら健康で元気に暮らせるよう、市民参加に基づく心温かい地域づくりを推進しています。

先の福島原発事故の際には被災者の障がい者施設の入所者や職員約 400 名を受け入れ、1 年間にわたり市民ボランティアとともに地域ぐるみで全面的に支援するなど障がい者にやさしい対応ができる実績も有しています。

そして何よりオリンピック・パラリンピアンに不可欠な最先端高度医療機能を有する大規模な民間病院などがあり、スポーツ医学はもとよりリハビリテーション施設も充実しており、あらゆる分野の医療支援体制が可能であることは全ての選手にとりまして安心して競技やトレーニングができる最高の環境であると言えます。

これら充実したスポーツ施設、宿泊施設と最先端の医療体制を有する鴨川市はオリンピック・パラリンピック関連の競技会場やキャンプの最適地であることを確信し、官民一体となりオール鴨川で誘致活動に取り組んで参ります。

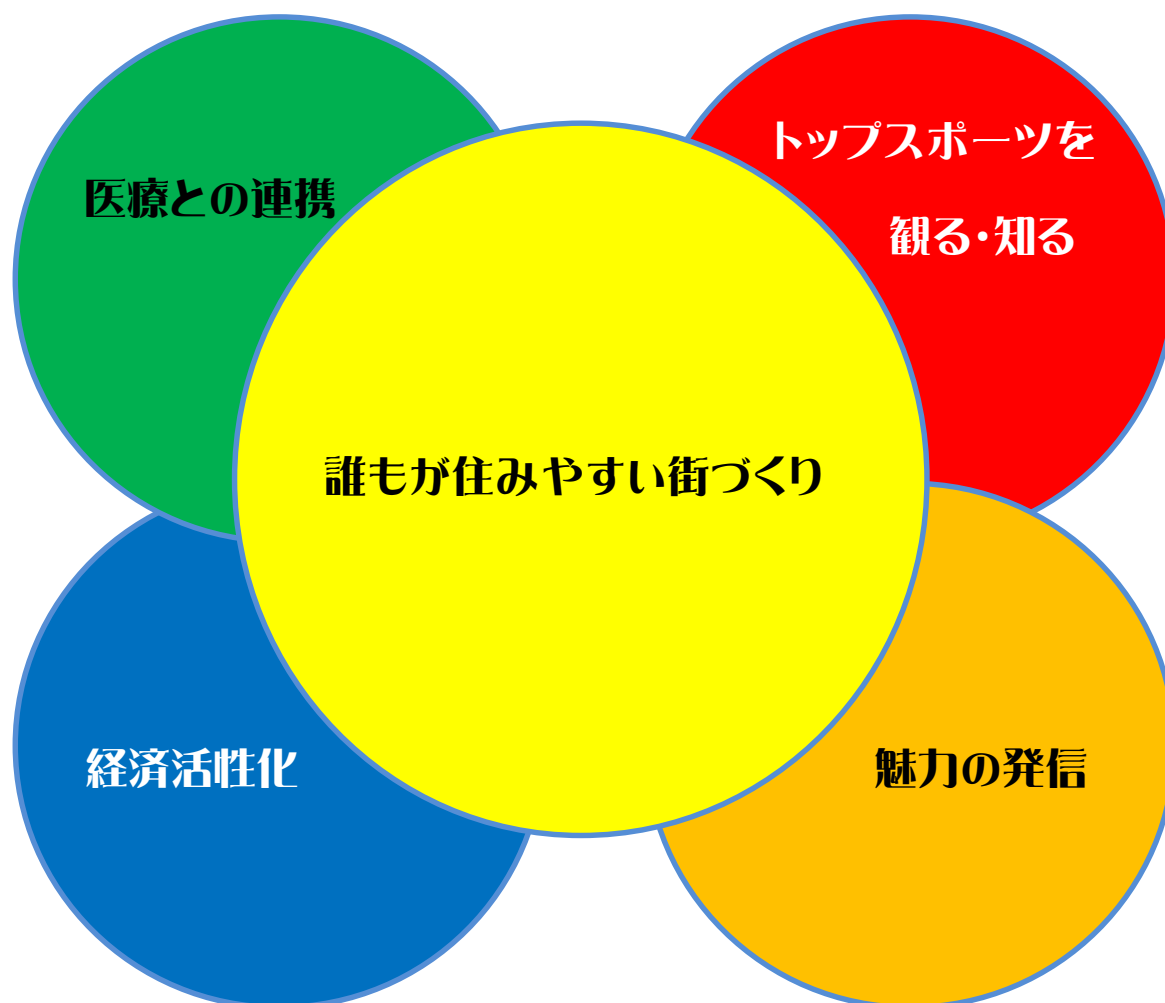


鴨川市がオリパラ関係の招致に取り組む目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を受け、競技会場やキャンプ等を誘致します。

両大会の成功に関係自治体等とともに連携・協力し、本市のスポーツ文化の発展、障がい者スポーツの振興、国内外に向けた魅力発信等を通じて本市の発展を図ります。

鴨川市にとっての東京オリンピック・パラリンピックとは？



誰もが住みやすい街づくり

高齢者、障がい者や子ども達が安心して安全に暮らせるよう、施設のバリアフリー化の促進、医療との連携、防災等に配慮した、市としてのトータルデザインが重要です。

オリパラを契機に「誰もが住みやすい街づくり」を具現化するため、ハード面やソフト面の充実を図ってまいります。

1.医療との連携

鴨川市は、国内有数の民間医療機関の亀田メディカルセンターをはじめ多くの医療機関を有し、医療体制が大変充実している街です。

それらと連携し、パラリンピアン等への十分なサポート体制が整っています。



2.トップスポーツを観る・知る



スポーツの普及や振興を図り、スポーツを市民にとって身近なものとするためには、トップアスリートなどの優秀な技術を観たり、経験を知ることとはとても有効です。

特に将来鴨川市を担う子ども達にとって、影響力は計り知れないものがあります。

3.経済活性化

鴨川市は、アクアラインにより都心へ僅か1時間余りでのアクセスが可能です。

宿泊施設も充実しており1日に約7,000人を受け入れられる千葉県南随一の観光都市である鴨川市にとって、オリパラの大会による地域経済への波及効果が大きいと期待されます。

4.魅力の発信

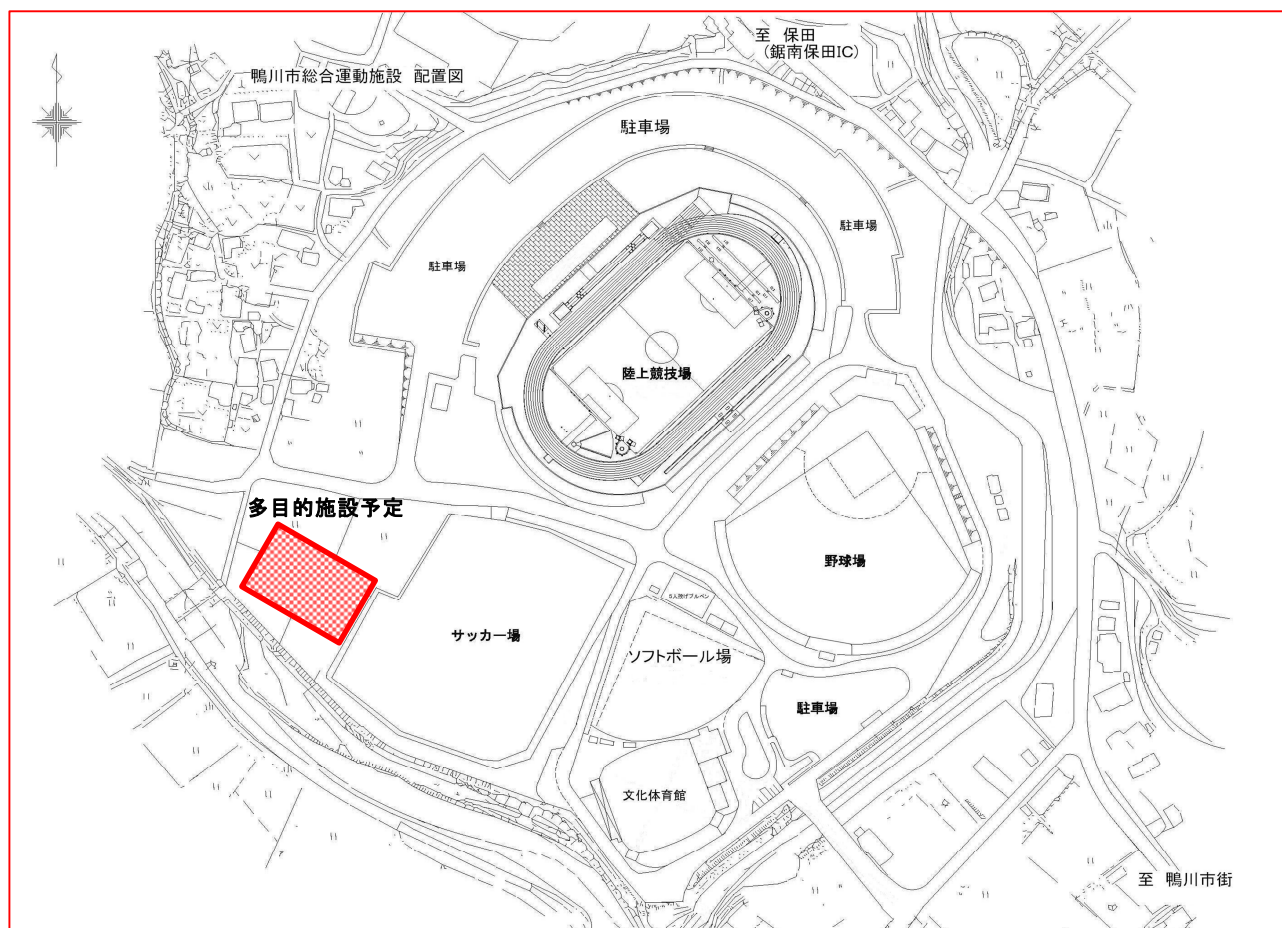
スポーツ観光交流都市でもある鴨川市の魅力を国内外に発信し、何度でも繰り返し訪れてもらえるようなホスピタリティを持ってお迎えします。

同時に、新たな鴨川の魅力の創造や掘り起こしを行っていきます。



鴨川市総合運動施設概要

施設名	規 模
総合運動施設	全面積 132,000㎡ (多目的施設用地含む)
野球場	両翼 97.5m センター 122m 収容人員 4,480人(メイン 854、内野 1,292、外野 2,334)
ソフトボール場	両翼 70m センター 70m
投手練習場	5人投
文化体育館	アリーナ 2,373㎡ (床人工芝) トレーニングルーム
陸上競技場	(第三種公認) ・トラック 400m×8コース ウレタン全天候舗装 ・インフィールド サッカーコート 105m×68m芝(高麗)舗装 ・メインスタンド 鉄筋コンクリート造り 1,240人収容 ・芝スタンド 3,000人収容 ・駐車場 大型 5台 普通 511台
サッカー場	105m×68m ロングパイル人工芝舗装 夜間照明
多目的施設 (予定)	敷地面積 約 9,400㎡ ・メインアリーナ、サブアリーナほか

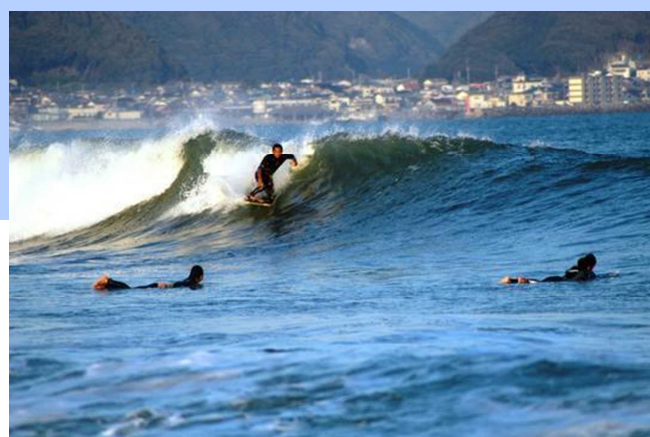


はじめてのオリンピック・サーフィン競技を鴨川で！

●日本サーフィン発祥の地

1964年横須賀基地の米軍兵士たちがサーフボードを鴨川に持ち込み、鴨川の少年たちの間に広まりました。

1966年に日本初の全日本サーフィン大会が鴨川で開催、次々とクラブが結成され、ここサーフィンの聖地鴨川で鍛えられた少年たちはプロへの道を辿り、多くのプロサーファーを輩出してきました。また、プロ、アマ問わず多くの大会が開催され、サーフィン大会「市長杯」も長年続けられています。



千葉県内の自治体や千葉県と連携を図りながら、サーフィンが東京オリンピック正式種目に決定するよう応援するとともに、鴨川市でのサーフィン競技開催を目指しています。

様々な競技のキャンプは鴨川で！

●野球・ソフトボールのキャンプ受入体制が整っています。

鴨川市はプロ野球「千葉ロッテマリーンズ」の秋季キャンプ地です。

メイン球場やサブグラウンドに加え、雨天でも使用可能な人工芝張りの体育館やブルペンなど充実した施設があり、プロ野球のキャンプでも十分な受入体制が整っています。その実績から、多くの大学や高校が毎年キャンプに訪れています。



●車椅子バスケットボールを応援しています。

ユニバーサルスポーツ、特に車椅子バスケットボール競技の理解や普及を図るため、市民との交流会の開催をはじめキャンプを実施しています。

また、2018年に完成予定のバスケットボールコート2面のメインアリーナやサブアリーナなどを備えた（仮称）多目的施設をバリアフリー化し、キャンプの受入体制も充実します。



●自転車競技ロードレース・サイクリングの拠点へ

首都圏で他に例のない自転車環境を求めて、多くのロードレーサーやサイクリストがキャンプやサイクリングに訪れます。

情報ターミナルなどの拠点づくりを推進します。



鴨川市をはじめ館山市、南房総市、鋸南町の安房地域で連携し、ロードレースコースを設定しています。

Access



? お問い合わせ

〒296-0014

千葉県鴨川市太尾 866-1

鴨川市教育委員会スポーツ振興課

東京オリンピック・パラリンピック鴨川市対策推進本部

TEL : 04-7093-5111

FAX : 04-7093-5112

e-mail sports@city.kamogawa.lg.jp

URL <http://www.city.kamogawa.lg.jp>

